
梅の木の子

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

梅の木の精

【Nコード】

N2474K

【作者名】

山羊ノ宮

【あらすじ】

純白の雪が透き通る頃、彼女はあくびを一つする。
目をこすり、伸びをする。
彼女は黒髪で、おかつぱの女の子。
着物を着ている。
まるでお人形みたいな女の子。

純白の雪が透き通る頃、彼女はあくびを一つする。
目をこすり、伸びをする。

彼女は黒髪で、おかつぱの女の子。
着物を着ている。

まるでお人形みたいな女の子。

小鳥たちが目覚めた彼女に気が付き、挨拶に来る。

さあ、共に春の賛歌を歌いましょう。

そんな風にせわしなく騒ぐものだから、彼女もぼけらつとした頭で
考える。

ああ、もう春か。

風はまだ肌寒く、身震いするほど。

けれど、日差しは少しずつ暖かくなってきている。

そろそろ皆起きてね。

そう彼女が木々に語りかけると、今まで気配も無かったつぼみ達が
膨らみだす。

それから数日つぼみが開くまで、彼女はどんちゃん騒ぎ。

歌って踊って、楽しく過ごす。

皆春が待ち遠しいのか、彼女の元にたくさんのお客さん。

御近所の猫さんも、犬さんも、猪とか、鹿とか、何かよく分からない
生き物とか、いっぱい来る。

皆で祝う春の訪れ。

今年も良い春に。

今年も良い年に。

つぼみが開いて、花が咲いたら宴もたけなわ。

女の子は朱の盃に白い花弁を浮かべて、少しさみしそう。

盃の中の酒を口に含むと、鼻に抜けるは豊穡の香り。

のどを過ぎるは精錬なる液体。

きっと来年も楽しい宴会に。

そう思つて女の子は赤い花を手に取り、風に乗せて空に浮かべる。
赤い花弁はひらひらと舞い。

世界を彩る。

そして、ふわりと誰かの髪に花弁がついて。

髪をかきあげると触れる柔らかな感触。

手に取つて辺りを見渡す。

そして、

「ねえ。ほら、あそこに・・・」

僕らは春の訪れを知るのだ。

指差すその先に、咲き誇るは梅の花。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2474k/>

梅の木の精

2010年10月20日19時27分発行